

梅雨空けと同時に、蝉の合唱が始まります。ところが毎年この時期に、地域の農薬散布が行われます。そのお陰で夏になると悩まされる、うるさい蚊やハエがほとんど姿を消しました。でもわたしは毎年、今年もこれを止めてほしい、と思っているのです。

大雨が降って、新潟に続き福井に大きな被害が起こりました。昔、神戸が同じ被害にあいました。その年、既に定年退職をしていた、神戸市の水道技師であった父が、神戸中を視察するオープンカーに、小さかった私も同乗して見た、水害の被害を、いまも覚えています。不可抗力の天災が、いつか起こるのですから、自分の不注意で、事故を起こさぬように気をつけねば、と思っているのですが、戦争ほど、愚かなことはありません。武力では何事も解決はしません。

時代が進み、世の中がすっかり変わってしまいました。といっても、まだ若い方達は昔を知りませんから、今が当たり前であるわけですが・・また次第に徐々に変わることに対しては、若くなくてもその変化には、なかなか気づかないものです。

何もかも、どんな世界も変わりましたが、音楽の世界は、すっかり変わりました。昔は女の指揮者・作曲家はないもの、と決められていました。(でもわたしの先生、中瀬古和先生は、日本でただひとり認められた女性の作曲家でした) 先年神戸市のオーケストラを指揮した女性の指揮者・岩城弘之氏が認め、今は世界のどこかで活躍している・そのひとの指揮棒の生み出す音楽のすばらしさは、誰が聴いてもわからないはずのない、立派なものです。

CDなどのレンタル屋という商売ができたこと、そしてそこに入って並ぶ曲たちが、若い普通の人達の作曲したものであること。今では当たり前になっていることが、ちょっと昔は考えられないことでした。誰もが楽器を弾き、曲を作り始めたのは、ヤマハがレッスンにコードを導入し、「コードシステムによる教育」を始めたこと、からでした。

勉強はその方法が大事です。音符をひとつづつ拾って音にしてゆく、今もそれが常識の勉強は、おもしろくなくて、苦しい努力の時間があまりにもかかりすぎます。その上に、自由と独創性が、殺されてしまうのです。それは、この進んだ今の時代に、乗り物に乗らずに、どこまでも歩いているようなものです。何十年と、毎日毎日ピアノの楽譜を音にし続けてきている人の多くが、意味のない読譜と丸暗記で、自由さがなく、まず自信がありません。

楽器の勉強は、語学の学びと同じです。今英語の世界では、ものすごい改革が叫ばれています。でも音楽教育は、まだまだ古いままのレッスンが、まかり通っていて、そんな勉強を何年も何年も、一生続けていても駄目、ということの理解が、一般の方たちにありません。目ではない、耳が開かれていなければならないのです。

最近活動を始めて、世間の注目をあつめてきている平原誠之さんは、新しい時代のピアニストです。あなたはお聞きになりましたか。